

【飼料生産組織】（鳥取県 鳥取県畜産農業協同組合）

- 鳥取県畜産農業協同組合は平成18年から牧草、飼料用とうもろこし、WCS※¹用稲の収穫作業を受託。
- 配合飼料の代替として稲粃のSGS※²での活用が注目される中、畜産クラスター事業を活用して稲SGS調製施設及び関連機械を整備し、平成29年から製造を開始。耕種農家から供給される飼料用米を加工調製し、地域の畜産農家へ供給。
- 水田地帯である東部地域（鳥取市、八頭町、岩美町）では、今後も飼料用米の作付けを推進し、自給飼料生産体制の充実を図るとともに、地域内の耕作放棄地削減を目指す。

【稲SGS取組の経緯】

- ・山形県真室川の事例を知り、中古でプレスパンダ※³を導入。
- ・倉庫を借りて試験的に製造・給与を実施。
- ・県試験場における和牛肥育への給与試験の結果もあり、
- ・平成29年度に施設を整備し本格実施。

【現在の状況】

- ・R3年出来秋については、166haの飼料用米を稲SGSに加工・調製。
- ・労働力8名で、1日あたり22tの稲SGSを製造。
- ・飼料用米の品種は、みなちから（専用）、北陸193号（専用）、こがねひかり。
- ・現在、粃米5円/kgで仕入れ、稲SGSを25～30円/kg（税抜）で販売。
- ・県内の大規模酪農家など畜産農家3戸へ供給、今後も利用農家を拡大予定。

取組状況	H30年	R1年	R2年	R3年
飼料用米利用面積 (稲SGS生産量)	40ha (200t)	44.7ha (226t)	78.72ha (410t)	166ha (917t)

※1 WCS: Whole Crop Silage
茎葉と子実を一緒に収穫してサイレージに調整した飼料

※2 SGS: Soft Grain Silage
子実を破碎処理等しサイレージ化(乳酸発酵)した飼料

※3 プレスパンダ: 破碎・粃殻膨軟化装置

収穫した粃米を搬入(計量)



粃米水分17%程度

昇降機でプレスパンダへ投入



膨軟化・粉碎粃米が搬出(加水)



水分30%に調整

乳酸菌を添加、フロンへ投入後、脱気・密封



一定期間発酵させ、農家へ供給

